

# 評価報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を实践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作 見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との		2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
	<b>合計</b>	<b>30</b>

訪問調査日 平成 19 年 6 月 29 日  
 調査実施の時間 開始 10時 00分 ~ 終了16時 00分  
 訪問先事業所名 グループホームタンポポ福祉館  
 (都道府県) 鹿児島県  
 評価調査員の氏名 氏名:池田 民子 氏名:福崎 順子

事業所側対応者  
 職名 管理者  
 氏名 井田 裕子  
 ヒアリングを行った職員 ( 3 )名

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

**記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護]

## 1. 評価報告概要表

作成日平成 19年 7月 11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4673100105
法人名	(有)タンポポ福祉館
事業所名	グループホーム タンポポ福祉館
所在地	〒899-2704 鹿児島市春山町1855-7 (電話) 099-278-7110
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	〒890-0056 鹿児島市下荒田2丁目48-13
訪問調査日	平成 19年 6月 29日

【情報提供票より】(19年6月7日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 3月 19日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数(すみれ)	12 人 常勤 3人, 非常勤 9人, 常勤換算 2人
職員数(ワルキュー)	7 人 常勤 1人, 非常勤 6人, 常勤換算 1人

## (2)建物概要

建物構造	木造コロニアル 造り 1階建ての 階 ~ 階部分
------	-----------------------------

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	800 円		

## (4)利用者の概要(平成19月6日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	川畑内科クリニック、脇丸医院、奥歯科医院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、隣に自由に出入りできる庭や畑作りができる広い敷地がある。地域の老人会、婦人会、子供会との交流や地域救急ボランティアにも登録し、地域との関わりを大切にしている。地域住民と交流をはかりながら、地域の方が気軽に立ち寄れる雰囲気作りに努めている。利用者一人一人の出来ることを大切に、日常生活の中で、自立支援に向けた取り組みが行われている。職員は毎朝二つのユニットの利用者全員と挨拶を交わし、なじみの関係をつくっている。また、出勤、退所時にトイレ掃除をすることが日課となっており、ホームの衛生面にも配慮され、利用者、家族、職員が気持ちよく過ごせるように、こころがけている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は職員に報告されている。理念の明示について検討され、重要事項説明書やホーム便りの中に明記して、わかりやすく説明するなど改善に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を中心に全職員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	現在2回、運営推進会議が開催されており、「地域に根ざしたホームのあり方」について討議している。民生委員や行政の担当者を通してホームを理解していただいている。社会福祉協議会からの「傾聴ボランティア」の研修などの情報交換をしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱を置いたり、家族会を設けて意見を出せる仕組みがある。家族の意見や苦情があった場合はカンファレンスで検討し対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の子供会のボランティアを受け入れており、近隣の子供たちも遊びに来る。地域の高齢者や商工会の婦人部との交流会もあり、地域との関わりを積極的に行っている。地域の救急ボランティアに登録している。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時の理念を見直して、わかりやすい言葉に作り変えている。理念の一つに「地域に根ざしたホームを目指します。」と掲げ、地域との関わりを大切にしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は申し送りやミーティングで理念について話し、日々の生活の中でも気づいた時にその場で言葉かけをしている。職員は理念を意識して日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りなどの行事にも参加している。老人会の行事案内もいただいている。地域の子供会のボランティアも受け入れており、近隣の子供達も遊びに来る。地域の高齢者や商工会の婦人部との交流会もあり、地域との関わりを積極的に行っている。地域の救急ボランティアに登録している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を中心に全職員で自己評価に取り組んでいる。外部評価についても職員に報告され、具体的な改善に向けて話し合いをしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、職員、民生委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会の担当者との参加のもと「地域に根ざしたホームのあり方」について話し合いをしている。		運営推進会議が現在2回行われているが、会議の記録がない。参加者の意見や要望を記録して、次回の会議やサービスの取り組みに活かしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者との連携を取り情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりの状態や領収書など個別に送付している。おたよりと一緒に、利用者本人の書かれた手紙を入れている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を置いたり、家族会を設けたり意見を出せる仕組みがある。職員は家族の面会時に話しやすい雰囲気を作っている。意見などがあった場合はカンファレンスで検討している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を作るために、職員は出勤時には、利用者全員に挨拶をしている。異動は職員の希望を聞きながら、利用者のダメージを少なくするために最小限にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員は積極的に研修に参加している。ミーティングで研修の報告をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は県や市のグループホーム協会との交流がある。		職員も地域の同業者との交流の機会をもち、意見交換などを通じて事業所や地域全体でのサービスの質の向上に取り組んでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にホームの見学をしていただいている。すぐに利用になった場合は家族に頻繁にきてもらうなどの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜・みそ・料理作り、昔話などを教えていただく機会をつくっている。職員も利用者への感謝の気持ちを大切にしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で声かけをして、利用者の思いや希望の把握に努めている。日々、家族と情報交換をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意見や希望を把握して、職員の意見を取り入れて介護計画を作成している。		利用者・家族、関係者の思いや意見を反映した介護計画は作成されているが、地域との関わりを盛り込んだ計画も検討してほしい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリングを行い、状態の変化に応じて見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院、受診介助などを支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に応じてかかりつけ医との連携を取り、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度者や終末期の人を対象にしているが、重度化した場合のあり方について、職員、家族で話し合いをしている。		現在、重度化や終末期のあり方について、医療機関や関係者からの情報収集に努めている事を活かし、十分な協議を重ね、全員で方針を検討してほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日常の声かけや支援の中で、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように心がけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事の時間など、利用者のペースに合わせて柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は本人のできること(お盆拭き、台拭きなど)を大切にしながら、利用者の食べたい物を献立に取り入れ、食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが、2ユニット間で協力して、利用者の希望に応じていつでも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫、洗濯たたみなど、得意分野を活かしてもらえるように支援をしている。畑仕事や散歩の途中で地域の人の会話を楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームに隣接している畑や広場に自由に入出りできるようになっている。買い物、近隣への散歩など外出する機会をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量の多い県道に面しているため、玄関の鍵はかけている。家族に十分説明して同意を得ている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回避難訓練を行っており、ホーム独自でも年5～6回利用者とともに訓練をしている。ホームの近くに消防署があり、日頃から協力をいただいている。		災害の発生に備えて、食料や飲料水の準備も望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事・水分摂取量を記録している。定期的に体重測定を行い栄養状態を把握している。		食事の献立を地域の栄養士などに点検してもらい、栄養のバランスにも配慮してほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口には季節の木々や花が咲き家庭的な雰囲気が感じられる。食堂は天窓が高く、自然の光が入り明るい。クラシックなどのやさしい音楽が流れ、居心地の良い空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家族の写真、仏壇などが持ち込まれ、居心地良く過ごせるように工夫されている。		